

令和 7 年度行政評価《事業評価調書》

事業名	創業支援セミナー「小樽商人塾」開催事業		担当	産業港湾部商業労政課				
事業概要	創業希望者を対象に、財務・会計や販売・マーケティングなどの知識習得及び向上を支援するためのセミナーを開催							
	事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算	879	千円	0.36	人	2,066	千円	2,945	千円
R7予算	970	千円	0.36	人	2,066	千円	3,036	千円
目標	セミナー開催により、商業起業家等を掘り起こし創業を促進させ、空き店舗の解消及び商店街の活性化を図る。							
実績・効果	・参加人数 R5年度(前後期計)30人、R6年度(前後期計)29人、R7年度(前期)31人 ・創業支援補助実績 R5年度6件、R6年度5件 ・中心 7 商店街の空き店舗率 R5.9 23.2%、R6.9 21.0%、R7.9 19.4%							
点検・評価	点検項目	評価		評価の理由等				
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い		・市長公約に該当する事業である。 ・創業支援等事業計画に基づく認定特定支援等事業として位置づけられている。				
	妥当性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い		・市内金融機関と連携するなど、事業実施体制が整っている。 ・事業内容について、受講者のニーズに合わせた磨き上げを行っている。				
	有効性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い		・アンケートによる参加者の満足度が高い。 ・修了者による市内での創業及び空き店舗への出店に繋がっている。				
	効率性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い		・基金により半額が賄われている。 ・令和7年度以降、使用料のかからない会場に変更し、経費削減に努めている。				
評価の結果を踏まえた今後の方向性				継続				
【今後の方向性の説明】 創業支援等事業計画に基づく認定特定支援等事業として位置付けられていることに加え、セミナー参加者の満足度が高く、修了者による市内での創業に繋がっていることから、継続とする。								

事業名			担当					
事業概要								
	事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算		千円		人		千円	0	千円
R7予算		千円		人		千円	0	千円
目標								
実績・効果								
点検・評価	点検項目	評価		評価の理由等				
	必要性	☐ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い						
	妥当性	☐ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い						
	有効性	☐ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い						
	効率性	☐ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い						
評価の結果を踏まえた今後の方向性								
【今後の方向性の説明】								

令和7年度行政評価《事業評価調書》

事業名 小樽産品販路拡大強化支援事業				担当 産業港湾部商業労政課					
事業概要		商談会への出展や道の駅等での直接販売、新商品の開発等を通じて、小樽産品の販売促進及び販路拡大を図り、地域経済の活性化につなげる。							
		事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算		7,252	千円	0.3	人	1,722	千円	8,974	千円
R7予算		15,593	千円	0.3	人	1,722	千円	17,315	千円
目標		商品の魅力的な見せ方の工夫や、道外など新たな販路の開拓を通じて、小樽産品の売上向上を図る。							
実績・効果		・関東のスーパーマーケットトレードショー成約額R6：26,634千円と多数の商談に結実した。 ・小売業や飲食業などのバイヤーをはじめ、地方や首都圏近郊百貨店等の担当者と商談。R6商談先40件、関連取引先売上79,316千円。 ・お取り寄せチラシによる販売はR6売上総額4,100千円。							
点検・評価	点検項目	評価			評価の理由等				
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			消費者ニーズや市場トレンドの変化等に対応するため、販路の多様化・拡大が必要である。				
	妥当性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			小樽産品販路拡大強化は、地域企業への売上向上に寄与し、地域経済の活性化や地域産業の発展につながるものであり、事業実施の妥当性が高い。				
	有効性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			販売実績の向上や商品の付加価値向上が図られており、地域経済活性化に対して一定の有効性を発揮している。				
	効率性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			物産振興に関する専門的知識と豊富な経験を有する小樽物産協会に事業を委託することで、小樽産品の販路拡大が推進されており、事業運営の効率性が高い。				
評価の結果を踏まえた今後の方向性					継続				
【今後の方向性の説明】 全国的に百貨店の倒産や閉店が相次いでおり、物産展に頼らない小樽産品の販路の確保が重要となってきたが、本市の中小企業の多くは専任の営業担当者の配置が難しく、本事業を通じた小樽物産協会による営業活動は非常に重要である。また、これまで本事業の取組によって小樽産品の新たな販路を着実に開拓してきたところであり、今後も販路を拡大していくためには、継続して事業を実施していく必要がある。									

事業名		小樽ブランド販路拡大推進事業		担当		産業港湾部商業労政課			
事業概要		地場産品の販路拡大と商圏の確立を図るため、認知度の向上やイメージの向上につながる取組を推進する。							
		事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算		718	千円	0.2	人	1,148	千円	1,866	千円
R7予算		1,121	千円	0.2	人	1,148	千円	2,269	千円
目標		物産展への参加等を通じて、小樽ブランドの認知度・魅力度を全国的に高め、売上向上や雇用の安定・拡大などの経済的波及効果に繋げる。							
実績・効果		各百貨店と小樽物産協会のR6年度取引高 山形屋：175百万円　宮崎山形屋：112百万円　藤崎：84百万円　浜屋：64百万円							
点検・評価	点検項目	評価			評価の理由等				
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			物産展への参加等は小樽産品を全国的に広めることができるため必要である。				
	妥当性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			百貨店が本市単独で物産展を開催してくれることは、地域産品の販売促進に加え、市のイメージ向上や観光誘致にも寄与するものであり、今後も継続すべき取組である。				
	有効性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			小樽ブランドの認知度と魅力度を全国的に高めることにより、取扱店舗や売上の拡大につながるなど、極めて有効な事業である。				
	効率性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			小樽産品の認知度向上や地域の魅力発信を通じて、物販のみならず観光や移住促進にも波及効果が期待でき、本市を効率的にアピールできる事業である。				
評価の結果を踏まえた今後の方向性					継続				
【今後の方向性の説明】									
全国の百貨店における物産展は、若干の縮小傾向は見られるものの、引き続き大きな売り上げが期待されるとともに、小樽産品の認知度向上や魅力発信、さらには観光や移住など、本市自体の魅力発信にもつながるものであることから、今後も本事業を継続し、本市単独物産展等の開催の継続を図るとともに、物産展における小樽産品の売上げの維持を図っていく必要がある。									

令和7年度行政評価《事業評価調書》

事業名 物産協会補助金				担当 産業港湾部商業労政課					
事業概要		(一社) 小樽物産協会が実施する地場製品の紹介・宣伝、取引の斡旋、物産展の開催及び参加等に係る事業に対し、補助金を交付する。							
		事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算		3,600	千円	0.3	人	1,722	千円	5,322	千円
R7予算		3,600	千円	0.3	人	1,722	千円	5,322	千円
目標		小樽製品の販路拡大並びに商圏確立・強化を図り、地域製品の売上向上、地域経済の活性化を図る。							
実績・効果		大規模商談会への出展や商品開発支援、お取り寄せチラシ等を活用した販売促進を通じて、地域製品の競争力強化を図っている。これらの取組は、小樽市の全産業就業者の約1割を占める製造業者が生産する地域製品の売上向上に大きく寄与している。							
点検・評価	点検項目	評価				評価の理由等			
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				小樽物産協会は、地域製品の紹介や宣伝を通じて小樽市及び近郊地域の事業者を支援する重要な組織である。安定的な経営基盤確立のため、引き続き補助金の交付が必要である。			
	妥当性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				同協会は、大規模商談会への出展、商品開発支援、お取り寄せチラシ等を活用した販売促進など、地域製品の販路拡大や売上向上に大きく貢献している。			
	有効性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				新たな市場開拓や商品開発に積極的に取り組むことは、地域産業全体の競争力強化に寄与し、極めて有効である。			
	効率性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				これまで培ってきたネットワークを活用することで、効率よく小樽産品をアピールできる。また、小樽製品の認知度向上や魅力発信を通じて、観光・移住促進などへの波及効果も期待できる。			
評価の結果を踏まえた今後の方向性						継続			
【今後の方向性の説明】 (一社) 小樽物産協会は地場製品の紹介・宣伝や取引の斡旋などを通じて、小樽市及び近郊地域の事業者にとって欠かせない存在となっている。これまで、地域製品の売上拡大に大きく貢献し、地域経済の活性化にも大きく寄与してきた。今後は、これまで培ってきたネットワークと販路をさらに活用し、販促活動の強化や新たな市場開拓に取り組むことが重要である。そのためにも、安定的な経営基盤の確立が求められており、引き続き補助金による支援が必要である。									

事業名			担当				
事業概要							
事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算		千円		人		千円	0 千円
R7予算		千円		人		千円	0 千円
目標							
実績・効果							
点検・評価	点検項目	評価		評価の理由等			
	必要性	☐ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い					
	妥当性	☐ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い					
	有効性	☐ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い					
	効率性	☐ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い					
評価の結果を踏まえた今後の方向性							
【今後の方向性の説明】							

令和 7 年度行政評価《事業評価調書》

事業名		にぎわう商店街づくり支援事業		担当		産業港湾部商業労政課			
事業概要		小樽市商店街振興組合連合会に属する商店街がにぎわいを創出し、魅力を向上させる事業のうち、新規事業又は既存の事業内容を拡大若しくは発展させる事業を行ったときに助成対象経費の一部を助成。							
		事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算		4,200	千円	0.03	人	172	千円	4,372	千円
R7予算		4,200	千円	0.03	人	172	千円	4,372	千円
目標		助成により、商店街の集客や認知度の向上に寄与する事業が実施され、リピーターの増加や中心市街地のにぎわい創出に貢献する。							
実績・効果		助成件数 R5年度 6件、R6年度 7件、R7年度 8件（予定）							
点検・評価	点検項目	評価				評価の理由等			
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				・市長公約に該当する事業である。 ・商店街団体がイベントを企画・実施することは、地域の特性やニーズを反映した商業活動を促進し、地域経済の活性化につながる。			
	妥当性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				・助成を行うことで、商店街団体の経済的負担を軽減し、実現可能な規模での効果的なイベントの実施が可能となる。			
	有効性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				・イベント助成によって、商店街団体の主体的な取組が促進され、中心市街地のにぎわい創出につながっている。			
	効率性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				・助成対象とする商店街及び事業について定めており、効果的な事業への助成となるよう、商店街団体と補助対象事業の内容を協議している。			
評価の結果を踏まえた今後の方向性						継続			
【今後の方向性の説明】									
・地域経済の活性化の一助となっているイベント等について、商店街団体自身が主体性をもって企画・実施に取り組むことが重要であり、助成事業はその促進に寄与していることから、令和 8 年度以降も引き続き継続する。									

事業名 商店街活性化支援事業			担当 産業港湾部商業労政課						
事業概要		活力ある商店街の形成を図るため、イベントや情報発信事業の実施またはアドバイザーを派遣する商店街団体に対し、助成対象経費の一部を助成。							
		事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算		1,700	千円	0.03	人	172	千円	1,872	千円
R7予算		2,300	千円	0.03	人	172	千円	2,472	千円
目標		助成が新たなイベント創出の契機となることに加え、イベントを通じて商業者同士の交流が生まれる相乗効果を発現する。							
実績・効果		助成件数 R5年度 13件、R6年度 10件、R7年度 12件（予定）							
点検・評価	点検項目	評価				評価の理由等			
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				・市長公約に該当する事業である。 ・商店街団体がイベントを企画・実施することは、地域の特性やニーズを反映した商業活動を促進し、地域経済の活性化につながる。			
	妥当性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				・助成を行うことで、商店街団体が経済的負担を軽減し、実現可能な規模での効果的なイベントの実施が可能となる。			
	有効性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				・イベント助成によって、商店街団体や商業者集団の主体的な取組が促進され、中心市街地のにぎわい創出につながっている。			
	効率性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				・にぎわう商店街づくり支援事業と補完しながら、中市街地のにぎわいづくりへの支援が行われている。			
評価の結果を踏まえた今後の方向性						継続			
【今後の方向性の説明】									
・商店街団体だけでなく商業者集団を助成対象としており、対象者自身が主体性をもって新たなイベント創出する契機となっていることに加え、イベントを通じた商業者同士の交流が生まれる相乗効果も発現していることから、令和8年度以降も引き続き継続する。									

令和 7 年度行政評価《事業評価調書》

事業名 事業				担当 産業港湾部商業労政課					
事業概要		商店街団体が商店街の近代化等を図るために設置するアーケードや街路灯など公的利便施設を設置、改修及び撤去する場合に、市が予算の範囲内で経費の一部を助成。							
		事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算		2,000	千円	0.03	人	172	千円	2,172	千円
R7予算		0	千円	0.0	人	0	千円	0	千円
目標		助成により、市民や観光客が安心して通行できる環境を整備し、商店街の賑わいづくりや活性化につなげる。							
実績・効果		・令和6年度から設置に加え、改修・撤去に係る費用を対象に追加。毎年9月までに商店街団体から要望があった時点で翌年度予算措置。 ・R6年度 改修1件、R7年度 要望案件なし							
点検・評価	点検項目	評価				評価の理由等			
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い				・市長公約に該当する事業である。 ・商店街団体から求められている事業である。			
	妥当性	☐ 高い ☒ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い				・商店街団体が所有する施設ではあるが、アーケードやロードヒーティング等のインフラは地域の基盤となるものであり、行政によるそれら維持への補助は妥当といえる。			
	有効性	☐ 高い ☒ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い				・アーケード等の整備により、通行者の安全が確保され、地域の魅力が向上するとともに、商店街にとっては、集客効果の向上が期待できる。			
	効率性	☐ 高い ☒ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い				・商店街団体からの要望に基づき、必要に応じて補助するものであり、効率的な支出に努めている。			
評価の結果を踏まえた今後の方向性						継続			
【今後の方向性の説明】 商店街団体所有ではあるが地域の基盤となっているインフラに対する助成であり、商店街団体から求められている事業であることから、令和8年度以降も継続していく。 施設の維持補修には、多額の支出が想定されるため、長期的な視点での維持補修計画の構築・情報共有が必要であるため、商店街団体等との密な情報連携を図っていく必要がある。									

事業名 空き店舗対策支援事業			担当 産業港湾部商業労政課						
事業概要 小樽市商店街振興組合連合会に属する商店街等において、空き店舗を活用して、中小企業者が卸売・小売業、飲食業、サービス業などの店舗の開業又は増設する場合に、賃借店舗の家賃の一部を助成。中心7商店街の場合は、家賃のほか、内外装工事費の一部を助成。									
事業費(A)			概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)		
R6決算	964	千円	0.03	人	172	千円	1,136	千円	
R7予算	2,850	千円	0.03	人	172	千円	3,022	千円	
目標		助成により、既存事業者の出店意欲を助長し、空き店舗対策はもとより、事業の拡大に伴う雇用創出効果にも寄与する。							
実績・効果		助成件数 R5年度 家賃5件・工事1件、R6年度 家賃3件・工事1件、 R7年度 家賃2件・工事2件(10月末現在) 中心 7 商店街空き店舗率 令和5年9月23.2%、令和6年9月21.0%、令和7年9月19.4%							
点検・評価	点検項目	評価			評価の理由等				
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い			・市長公約に該当する事業である。 ・商店街団体や、出店希望者から求められている事業である。				
	妥当性	☒ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い			・商店街団体や、地元不動産業者等との連携により、空き店舗への出店支援体制が構築されている。				
	有効性	☒ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い			・家賃補助が、空き店舗率の改善につながっている。				
	効率性	☐ 高い ☒ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い			・本事業は、中心商店街への2店舗目出店に対する補助であり、創業支援補助金との補完により、効率的な出店支援が行えている。				
評価の結果を踏まえた今後の方向性					継続				
【今後の方向性の説明】									
市内の商店街や市場の空き店舗率は高水準が続いているものの、新たに開店する店舗もあり、近年はやや改善傾向が見られる。 事業の効果を高めるには、関係する商店街団体等との連携が欠かせないため、継続した関係強化を図っていく必要がある。									

令和 7 年度行政評価《事業評価調書》

事業名	商店街振興組合連合会補助金				担当	産業港湾部商業労政課			
事業概要	小樽市商店街振興組合連合会は、市内商店街の連合体として商店街の近代化や個店の経営の合理化に資する各種事業を展開しているため、人件費を除く事業費及び事務費の一部を補助し、事業を支援。								
	事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)		
R6決算	2,300	千円	0.03	人	172	千円	2,472	千円	
R7予算	2,300	千円	0.03	人	172	千円	2,472	千円	
目標	商店街活動の維持・発展のため、商店街単独ではなく横断的な連携のコーディネート役である連合会を支援。								
実績・効果	・令和元年度 2,300千円、令和2年度 2,300千円、令和3年度 2,300千円 ・同連合会が研修事業の開催、関係団体等の情報の伝達・周知、オールおたる年末年始大売出しなどを実施。								
点検・評価	点検項目	評価			評価の理由等				
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			・市長公約に該当する事業である。 ・各商店街の横断的な連携のコーディネートを行う連合会への支援は、市全体の商業振興にとって必要である。				
	妥当性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			・既に商店街活動の運営基盤を持っており、既存のネットワークや経験を活かして、持続的な運営が行われている。				
	有効性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			・連合会の事業が、商店街同士の協力関係の維持強化につながっている。				
	効率性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			・事業費補助を行うことで、コスト面において効率的な運営が可能となっている。				
評価の結果を踏まえた今後の方向性					継続				
【今後の方向性の説明】									
・連合会の事業が、商店街同士の協力関係の維持強化につながっており、令和 8 年度以降も事業費補助を継続していく必要がある。									
・連合会は、継続して所属13商店街相互の連絡・調整役を務めるとともに、新たな事業を生み出す視点からの連合会運営が必要である。									

事業名			担当						
事業概要									
		事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算			千円		人		千円	0	千円
R7予算			千円		人		千円	0	千円
目標									
実績・効果									
点検・評価	点検項目		評価			評価の理由等			
	必要性		☐ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い						
	妥当性		☐ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い						
	有効性		☐ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い						
	効率性		☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い						
評価の結果を踏まえた今後の方向性									
【今後の方向性の説明】									